

立命館創始155年・学園創立125周年記念 2025年度立命館先進研究アカデミー(RARA)主催シンポジウム

アート×テクノロジーが “可視化”する 未来研究デザイン

異分野融合で挑むデジタル・パブリックヒューマニティーズ

対象

研究者、高校生、大学生、大学院生、一般市民の皆様

2025年7月12日(土) 13:00~17:40
(12:30開場/コーヒーブレイクあり)

立命館大学大阪いばらきキャンパス H棟2階 ラーニングインフィニティホール + オンラインライブ配信

SPEAKERS 司会役



西浦敬信

立命館大学RARAアソシエイトフェロー
情報理工学部教授



赤間 亮

立命館大学RARAフェロー
文学部教授
アートリサーチセンターセンター長



田中 覚

立命館大学RARAフェロー
情報理工学部特任教授
アジア・日本研究所副所長



松葉涼子

立命館大学文学部教授
デザイン・アート学部、
デザイン・アート学研究所
設置委員会委員

参加費無料・事前申込制

(定員になり次第、申込受付を締め切ります)

2025年7月9日(水)23:59

現地参加 200名 / オンライン参加 500名

使用言語 日本語

情報保障 UDトークによる字幕配信あり

日本語字幕、機械翻訳による他言語字幕が必要の方は、申込フォームにてお知らせください。



中山雅貴

Senior Vice President,
Studio Head
Sony Innovation Studios



モニカ・ビンチク

メトロポリタン美術館
ダイアン&アーサー・アビー
日本工芸キュレーター



廣田ふみ

プロデューサー
株式会社イックク
代表取締役

詳細・お申込みはこちら



<https://rararix20250712-peatic.com/>

同時開催 RARA学生フェローによるポスターセッション

異分野融合で解き明かす創造性の本質と人間の叡智、体験、場所、研究の未来

テクノロジーが急速に進化し、とりわけ生成AIやXR(現実世界とデジタル世界を融合させる革新的な技術)が飛躍的に発展する現在、至るところで「人間らしさとは何か」「創造性はどこから生まれるのか」といった根源的な問いが浮上しています。テクノロジーが高度化するほど、身体感覚を伴うアートやデザインの価値が再認識され、領域を超えたコラボレーションが世界規模で生まれ始めています。

立命館先進研究アカデミー(RARA)は、こうした潮流のハブとなり、理工系の技術と人文・芸術研究を横断し、学内外の先端知を結ぶNodes(結合点)の形成と新たな知の創出に取り組んでいます。この度、知の共有と深化のために、アートとテクノロジーが可視化し拡張する私たち人間の叡智や体験、場所、そして、研究という営みについて、これからのデザインを考えるシンポジウムを開催します。奮ってご参加ください。

Profile (発表者)

西浦 敬信 TAKANOBU NISHIURA

立命館大学RARAアソシエイトフェロー / 情報理工学部教授
専門は音響情報学。音環境の解析、理解、再現、合成などの研究に従事。近年では、サウンド音環境にハイレゾ音源と信号処理技術を取り入れたイマージブオーディオ(高臨場没入型音空間)の研究開発に取り組んでいる。2004年立命館大学情報理工学部助教授、2007年同准教授を経て2014年より同教授、博士(工学)。

田中 覚 SATOSHI TANAKA

立命館大学RARAフェロー / 情報理工学部特任教授 / アジア・日本研究所副所長
専門は情報科学。多様なビッグデータから有益な情報を抽出し、可視化する研究に従事。近年では、世界遺産や国宝を含む国内外の貴重な文化財を3次元計測し、得られたビッグデータを精密可視化技術により活用する取り組みを進めている。2002年立命館大学情報理工学部教授、2025年より同特任教授、博士(理学)。

中山 雅貴 MASAKI NAKAYAMA

Senior Vice President, Studio Head, Sony Innovation Studios
2000年ソニー(株)入社。東京・アジア諸国勤務を経て、2007年よりソニーピクチャーズ勤務。ソニーの技術・商品を、映画・TV制作に活用する。2017年ソニーイノベーションスタジオ創業。バーチャル制作技術の開発と応用に従事。カリフォルニア州・ハワイ州弁護士。

廣田 ふみ FUMI HIROTA

プロデューサー / 株式会社イカッパ代表取締役
文化庁芸術文化課、国際交流基金アジアセンター、東京都歴史文化財団を経て、アート・デジタルテクノロジーを通じて人々の創造性を社会に発揮するための活動拠点「シビック・クリエイティブ・ベース東京」を立ち上げ、二松学舎大学非常勤講師。

モニカ・ビンチク MONIKA BINCSIK

ムロポリタン美術館ダイアン&アーサー・アビー日本工芸キュレーター
『着物スタイル・ジョン・C・ウェバーコレクション』(2022)、『京都・芸術的創造力の都』(2019)などの展覧会を企画。『着物スタイル・江戸の伝統から現代のデザインへ』(ムロポリタン美術館、2022)など日本の工芸と収集品に関して多数執筆。

赤間 亮 RYO AKAMA

立命館大学RARAフェロー / 文学部教授 / アートリサーチセンターセンター長 / デザイン・アート学部、デザイン・アート学研究所設置委員会副委員長
専門は文化情報学。欧米の図書館・博物館に所蔵される日本文化資源をデジタル化して大規模アーカイブを構築。とくに浮世絵アーカイブは、世界最大の浮世絵アーカイブとして知られている。スポーツや演劇などの無形文化のデジタルアーカイブ研究にも実績を上げている。

松葉 涼子 RYOKO MATSUBA

立命館大学文学部教授 / デザイン・アート学部、デザイン・アート学研究所設置委員会委員
専門は出版文化史。大英博物館企画展「Hokusai Beyond the Great Wave」(2017年)および「Citi Exhibition Manga」(2019年)にプロジェクト・キュレーターとして参加し、後者では図録の執筆も担当した。

立命館大学では、学園ビジョンR2030「挑戦をもっと自由に」のもと、社会共生価値の創造とイノベーションに取り組む「次世代研究大学」の実現に向けて歩みを進めています。2021年、さらなる研究高度化を牽引する制度として先導的・先進的研究拠点の形成を図る中核研究者の集まり「立命館先進研究アカデミー(英語名称: Ritsumeikan Advanced Research Academy(RARA))」を設立しました。



RARAウェブサイト

Timetable

13:00 開会、趣旨説明

立命館大学学長 仲谷 善雄より挨拶
アジア・日本研究所所長 小杉 泰より挨拶
モデレーター 田中 覚より趣旨説明

13:15 リレートーク

途中30分休憩あり

I テクノロジーの視点から

西浦 敬信
「紙面離れの音響デジタル保存とイマージブオーディオへの拡張」
田中 覚
「3次元計測を活用した文化財のデジタル保存とビジュアル分析」

II 企業・社会活動の視点から

中山 雅貴
「映像制作における各種キャプチャ技術の活用」
廣田 ふみ
「メディア文化のオープンネスをつなぐ場所／ひらかれる表現」

III 人文学の視点から

モニカ・ビンチク
「Enriching Museum Engagement Through Digital Innovation」
赤間 亮
「文化資源デジタルアーカイブからデジタル・パブリックヒューマニティーズへ」

15:30 コーヒーブレイク

16:00 パネルディスカッション

コメンテーター: 松葉 涼子
パネリスト: 中山 雅貴、廣田 ふみ、モニカ・ビンチク、西浦 敬信、赤間 亮
モデレーター: 田中 覚

17:40 閉会

RARA学生フェロー ポスターセッション

RARAでは、次世代研究者である優秀な博士後期課程の大学院生やRARA学生フェローとして採択し、支援しています。休憩時間中に開催する学生フェローによるポスターセッションへ、お気軽にお立ち寄りください。(会場:日棟1階 OIC FOOD PARK)

Access

立命館大学 大阪いばらきキャンパス
大阪府茨木市岩倉町2-150

- JR 茨木駅から徒歩約5分
- 阪急京都線 南茨木駅・大阪モノレール 南茨木駅・同 宇野辺駅から徒歩約10分

問い合わせ先: 立命館大学研究部RARAオフィス
rararits@st.ritsumeikai.ac.jp

共催

立命館大学アートリサーチセンター / アジア・日本研究所 / デザイン・アート学部、デザイン・アート学研究所設置委員会



アクセスマップ